

健康メモ

第41回

低用量経口避妊薬（ピル）について

産婦人科医師 匂坂勝昭（歌津つつじ苑施設長）

従 来から日本での避妊法としては、コンドーム、膈外射精など男性側主体に頼っていますが、平成11年から低用量ピル（経口避妊薬）が解禁発売され、現在では男性に依存せず、ピルを内服することにより、安全で避妊効果の高い避妊法を女性自身が選択できるようになりました。

世 界の9000万人以上の女性がピルを使っていますが、いまだに日本での使用率は低いままで、2003年の国連調査によると、ドイツ58.6%、フランス35.6%、アメリカ15.6%、日本1.3%であり、2004年の厚労省報告では1.9%と増加傾向ですが、他の先進国に大分遅れをとっています。

ピ ル服用を希望しますと、婦人科を受診し問診票の記入と血圧が測定され、ピルについての有効性と安全性の説明に同意すれば保険外診療費を支払ってピルが処方されます。初回は月経開始後5日以内にピル内服を開始し、指示された順に1日1錠を飲み忘れないようにすれば、99.7%は避妊されます。高血圧や35歳以上で1日15本以上喫煙していると、ピルの作用として稀に起こる心筋梗塞や静脈血栓塞栓症のリスクを避ける為、処方できませんので、高血圧治療や節煙（禁煙）しましょう。

ピ ル服用による避妊以外の利点（副効用）として、月経周期が一定になり、月経痛や経血量を減少し、卵巣癌、卵巣のう腫、子宮体癌のリスクが減少すると報告されています。歯磨きするのと同じように毎日の習慣の中で飲んでいけば、忘れず決して面倒ではないでしょう。しかし、ピルを内服していても、エイズ、クラミジア、ヘルペス、淋病などの性感染症を防ぐには、コンドームを使用するのが最善の方法ですから、場合によってはコンドーム併用が安全です。



匂坂勝昭医師

第56回 いきいき健康講座のお知らせ

「冬のウイルス性感染症について」

ノロウイルスやその他のウイルスによる感染性胃腸炎を中心に

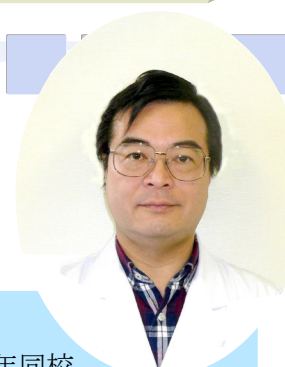
- ・講師 西村秀一 先生 国立病院機構仙台医療センターウイルスセンター長
- ・日時 平成19年2月27日（火）
- ・場所 東松島市コミュニティーセンター
・住所：東松島市矢本大溜1-1 ・電話：82-6969
- ・講演 午後6時30分～7時30分

入場無料！

Topics

■ 新任医師のご紹介

12月より小児科に新しく、**青海仁先生**を迎え、診療体制が充実しました。



青海仁（あおみひとし）先生プロフィール

県立新潟高校卒。昭和57年に新潟大学医学部を卒業し、同年同校小児科学教室に入局しました。新潟大学以外では県内の公的病院で小児科診療に従事しました。大学の医局では主に腎臓の患者さんを診ることが多かったのですが、臨床上では小児神経への興味の方が強うございました。宮城県内では約9年間岩切病院に小児科医として勤務してまいりました。一般小児科医としてこの地域の医療に少しでもお役に立てればと考えています。
資格 小児科専門医、感染症コントロール医、産業医

職員紹介

第64回

佐野 智洋（さのもとひろ）《介護課長》

- ・出身地 涌谷町 ・趣味 買い物
- ・好きな食べ物 ラーメン（飲んだ後は必ずこれ！！）
- ・最近ハマっている事
おいしい地酒と魚料理を食べに行く事
- ・最近とても驚いた事 特になし



入社10年。これまでさつき苑中心に勤めてきましたが昨年より拠点を真壁病院に移し、介護の幅、知識を広げようと気持ちを新たに頑張ってます。温かく見守られているのを実感すると伸びるタイプなのでよろしくお願い致します。